

第6期第4回（令和5年度第4回） 横浜市子ども・子育て会議 青少年部会 会議録	
日 時	令和6年3月29日（金）午前10時00分から午前11時30分まで
開催場所	横浜市青少年交流・活動支援スペース 第1研修室
出席者	津富部会長、萩原副部会長、倉根委員、島田委員、辺見委員、梁田委員、三輪委員、矢尾委員、平森委員
欠席者	横田委員
開催形態	公開（傍聴者3人）
議 題	(1) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画について (2) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画に向けた新たな点検・評価の試行実施（案）について
情報提供	青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的実施に向けた検討について
決定事項等	議題について、委員に説明を行い、内容について意見交換をした。
<p><議事1>第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>【事務局】第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画について説明（資料3）</p> <p>（津富部会長）</p> <p>当事者性が高い子ども、若者から提案をもらって事業をつくるというのもあったら良いと思った。若者でチームをつくって提案してもらい、それでPDCAサイクルが回ったりすると面白い取組になるのではないかと感じている。</p> <p>（事務局）</p> <p>子どもの意見を聞きながら進めていくというのは、次の計画の一つポイントになる部分だと思っている。いただいた意見をどのように反映できるか検討していく。</p> <p>青少年相談センターでピアサポートという、ひきこもりだった当事者の方経験を話していただくという事業を始める。その方に集まっていた意見を聞くなどはできると思うので、参考にして進めていきたい。</p> <p>（三輪委員）</p> <p>本計画に、地域福祉保健計画などの横浜市の他の計画や地区別の計画の内容と連動した記載をするべきだと思う。地区センターやケアプラザなど、関連性のある取組との連動も明確に落とし込むべきだと感じた。本来であれば、子ども子育て支援事業計画も地区別に近い内容を記載して良いと思っているので、それに近い文言を加えてほしいと思っている。</p> <p>また、切れ目のない支援に関連して、性教育や子育てすることの幸せを青少年期の方々に発信することが大切だと思っている。もっと幸せな子育てをするために動こう、というメッセージ性があるのも良いと思う。</p> <p>（事務局）</p> <p>子どもにとっての生活圏域で取組が実際に進むような計画の中身にするということについて、ご指摘のとおりだと思う。細かな地域の状況を整理しながら、具体的に進んでいくイメージが持てる視点を、第2章に記載する。また、第4章で市の事業と地域とともに進めていく事業をしっかりと分けて記載することや、地域福祉保健計画の中で地域が進めていこうとしているものとの連携を記載するなどが考えられると思うので検討していく。</p> <p>もう1点の切れ目のない支援について、青少年期の子どもたちが、親になっていくというつながり</p>	

を見せるというような内容を、20ページ基本施策1で、生まれる前から乳幼児までの一貫した支援の充実という中に含めるつもりである。妊娠する前の段階から子どものいる生活についてイメージを持ってもらえるような取組を新たに加えていく必要があるというのを基本施策1の中で議論しているところである。ライフステージに合わせて並べている基本施策1から4が循環していく、そのつながりをしっかりと記載するというご指摘だと思うので、検討していく。

(事務局)

実際の事業の立場から補足をする、令和6年度から、地域における子育て資源の開拓という趣旨で、こども家庭センターが区役所のこども家庭支援課に機能として設置していくことが決まっている。これらの取組を通じて、様々な地域で、どのような形で子どもを見守っていくのかの捉え直しというものを行いたいと思っている。また、これらの取組を、区政推進課など、まちづくりに関わっている部署などと連携しながら進めていく予定である。

切れ目のない支援について、20ページ基本施策1において、プレコンセプションケアということで、妊娠前からの切れ目のない支援というものを文言として明確に打ち出している。この支援を専門職も含めてしっかりと取り組んでくつもりなので、これらの取組を計画の中にもうまく表現できるように留意していく。

(三輪委員)

関連する主な計画の中に、福祉関係の計画だけでなく、都市計画マスタープランなども含まれないか。

(事務局)

検討する。

(三輪委員)

市内のどこかで取組をしていけば良いということではなく、子どもが生活圏の中で選択できることが大切だと感じている。様々な形態の子どもの居場所をエリアで共有できるようにして、子どもにとって選択肢が増える施策を目指してほしい。

(矢尾委員)

子どもの意見を聞くに当たって、誰がどんなふう聞くのか、何を聞いて、どこまで公表していいのかという情報の選択が難しいと思っている。それを行った後に子どもたちが、意見を言っても反映されない、意味がないという思いをしないように、フィードバックの仕方も工夫する必要がある。様々な施策で子どもの意見を聞く取組が記載されているが、これらの要素も含めて一体的に考え、どのような理念で意見を聞いていくかを共有できるように進めていくことが必要だと感じた。

(梁田委員)

切れ目のない子育て支援について、全体としてはいい方向に向かっていると思うが、学齢期からの支援が弱いように感じている。様々な福祉団体が混じり合って活動しているわけだが、地域の住民はどこで誰がやっているか分からないことが多い。それらを学齢期の中高生たちにどのように知らせるかということを、この会議では主に考えていかなければいけないと思っている。

また、子ども真ん中施策について、保護者だけではなく、子どもが納得する施策というものを考えていってほしいと思っている。地域の子どものためには、自分に合ったところを探して行くということもできるように、様々な場所や取組があるということも大切だと思う。

最後に、23ページに記載の、朝の居場所づくりについてももう少し詳しく聞きたい。

(事務局)

小学生の朝の居場所づくりモデル事業というもので、令和6年度の予算から新たに組み込む内容となっている。学校施設を活用して小学校のお子さんの朝の居場所を新たにつくるということで、2校程度でモデル実施したうえで、事業の在り方を含めて検証していく予定となっていて、事業の開始は令和6年度の7月ごろを見込んでいる。

(萩原副部長)

20ページの施策体系を見ると施策分野が3つに分かれているが、個別の課題やターゲットを絞った課題が増えていくことで、施策分野3の「社会全体で子ども・青少年を大切にする地域づくりの推進」という全ての土台ともいえる施策が弱く見える。説明のあった施策4の、居場所の多様化や施設間の連携、スタッフ等の人材育成は施策分野3に関わる話でもあるのももう少し厚みのある表現にしたほうが良いと感じた。

他委員から、学齢期からの支援が弱いという話があったが、横浜市の小学校4年生から中学校1年生の間の暴力発生率は非常に高くなっている。このことについては、教育委員会にしっかりとヒアリングしてもらい、その見解を聞きたい。そのうえで、今後の施策にどのように反映させるべきかを中長期的に検討することが必要だと思う。

(島田委員)

子ども・青少年という表記と、子ども・若者という表記の部分があるのでその違いが気になった。

23ページの子ども・青少年の居場所関係者のネットワークづくりについて、NPO法人など既存の横のつながりもあると思うので、そこに行政がしっかりと介入して進めてほしいと感じた。

<議事2>第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画に向けた新たな点検・評価の試行実施(案)について

【事務局】第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画に向けた新たな点検・評価の試行実施(案)について説明(資料4)

(津富部長)

子ども若者に、単にアンケートをとるのではなくて、選んだ事業をモニタリングしてもらって意見を聞くなど、子どもの力も借りながら進めていく取組があってもよいと感じた。

(三輪委員)

省略すること自体は良いが、数値目標ではない、質的な目標は別途文言が入るという理解でよいのか。

(事務局)

文言で整理すべき事項は補足説明等で記載していく予定。

(三輪委員)

効率化自体に異論はないが、数値目標だけではない評価をどう捉えるかは、重要な議題だと思っていて、点検評価を効率化することで目標を数値で設定する方向になるのは良くないと思うので、質的評価についてもしっかりと考慮してほしい。

部会長の発言にもあった、子どもの評価を試行的に始めるなども検討して良いと思った。

(事務局)

5ページにあるように、文言で記載すべき部分については、質的な評価もしっかりと確認できる

ように進めていく。

<情報提供> 青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的実施に向けた検討について

【事務局】 青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的実施に向けた検討について説明（資料5）

（萩原副部長）

事業の目的の変更案に、「大人の見守りのもと」と記載されているが、あえてこれを記載すると中高生にとって居心地が悪くなる可能性がある。防犯カメラの設置についても同様の側面がある。可能であれば「大人の見守りのもと」という記載は削除してもよいのではないかと。

（事務局）

大人の見守りについては、地域活動拠点に必ずスタッフを配置するという意味で記載している。

防犯カメラについては、子どもと施設スタッフが1対1になる可能性がある場所について、子どもを守ることに加えて、施設スタッフの身の潔白を証明するという狙いがあるが、指摘いただいた懸念もあるため、施設と調整しながら方向性について検討していく。

（津富部長）

防犯カメラも、子どもの意見を聞いてつけていくのが良いと思う。

（三輪委員）

副部長と同様に、「大人の見守り」の記載は削除すべきだと思う。子どもたち自身で助けあうことやルールを決めていくことも、地域活動拠点の大事なコンセプトだと感じた。

目的に記載すると意味合いが大きくなるので、記載するとしても要綱などに記載したほうが良いと思う。

（事務局）

子どもの自治という要素も必要だと感じたので検討したいと思う。

閉 会

資料	資料1	横浜市子ども・子育て会議青少年部会 委員名簿
	資料2	横浜市子ども・子育て会議青少年部会 事務局名簿
	資料3	第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画について
	資料4	第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画に向けた新たな点検・評価の試行実施（案）について
	資料5	青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的実施に向けた検討について
	資料6	横浜市子ども・子育て会議条例
	資料7	横浜市子ども・子育て会議運営要綱
特記事項	なし	